

人権教育、同和教育講演会 『家族の絆、仲間の絆、生涯の絆』
～本当の思いを語り合う仲間づくりをめざして～

講師；徳島県板野郡松茂町立松茂中学校
教諭 森口 健司 様

■講演の内容

森口先生は、ご自分の被差別体験を生徒たちに語り、また、進行性筋ジストロフィーという難病と闘いながら、夢をもって生きる川田優也さんの姿を映像を通して紹介し、家族との絆、そして彼と共に生きる仲間との絆を語ってくれました。

後半は、映像の中の「全体授業」で自分のこと、家族のことを語る同じ中学生の姿を紹介した後、「みんなも自分のことを語ろう」と紫雲寺中の生徒に「信頼」「尊敬」「感謝」をキーワードに語りかけました。そんな森口先生に伝えて、1年生から3年生まで、何人もの生徒が、自分の思いや考え、家族への思いや感謝の言葉を次々に手を挙げて発表してくれました。聞いている私たちは胸が熱くなりました。涙ながらに自分を語る3年生や自分の家庭環境を語り、「親に感謝しなければダメだよ」と全校生徒に訴える3年生の姿に全校生徒は心を動かされました。

講演会后、書いた生徒の感想の一部を紹介します。

どの生徒も、被差別体験を語る森口先生の飾ることのない言葉の力に心を動かされていました。川田優也さんの映像からも「夢をもって生きる力」を受け取っていました。そして、何より、この紫雲寺中で一緒に過ごす1年生から3年生まで仲間が赤裸々に自分を語る姿に感動し、仲間に対する「信頼」と「尊敬」の気持ちが強く心に刻み込まれたはずです。

家での言動を思い返してみると、やっぱりひどかったなあと思いました。私だけを中心にして世界が成り立っているわけではないのに、家族には自分が「〇〇できなかったから」「〇〇できない！！」など、イライラを家族へぶつけてました。今思うとすごくおかしいことをしていたなあと思います。なのに家族は私の話を聞いてくれるし、反論もしてきません。家族も何気なく話を聞いているように見えて、しっかり考えていてくれていたんだなと思うと、すごく今まで家族にやってきたことが申し訳なく思えてきました。なので、これからは今までしてきたことに対して意識を改めて家族への感謝を伝えられるようにしたいです。

(1年生)

講演を聴いて、いろいろな人の意見や生き方などを聴いて、自分が人としてどうかということを考えさせられました。そして、その中でも、親に対する思いについて、少し考えました。この年齢は親への気持ちを言えない年齢だと思っていました。が、それはただ言えないのではなく、言わないだけなんだなあと思いました。だから、親へ感謝の気持ちを近いうちに伝えたいと思いました。他にも、障害をもつ人の生き方や部落の人などを変に同情することは、その人たちに失礼なことだと、改めてわかった。自分なりに考えたとき、同情は相手を下に見ていると思います。だから、そういう人と接するときは、同情ではなく、相手を自分と同等にみて接するのが一番いい、と自分は思いました。(1年生)

今回の講演を聞いて、自分は今まで以上に家族や友だちに感謝をしました。毎日、一緒にいることが当たり前だと思っていたこともあったけど、今回の話を聞いて、それは当たり前のことではないと分かりました。自分が悩んでいた、辛かったり、苦しんでいるときに、「大丈夫?」「話聞くよ」「一人で我慢してもいいことはないよ」などと優しく声を掛けてくれる友だちや先生方、家族に改めて感謝しました。今回の話を聞いて、もっと人に頼ったりしてもいいのだ、と分かりました。一人で我慢してためていてもいいことはない、心配してくれている人に助けってもらっていいんだと思えました。でも、それ以上に自分が頼ってもらえるように、人に優しくしようと強く思いました。(2年生)

今回、講演を聞いて、もう一度自分を見つめ直すきっかけになりました。自分の周りにはいろいろな面で関わっている人がたくさんいます。その中で一番大事だと思うのは「家族」です。自分のために働いてくれて、ご飯を作ってくれて、必要なものを買ってくれたりたくさん世話をしてくれます。そんな中でも、少しのことでケンカしたり、自分だけがいいように当たってしまう時もありました。そして一人になったとき、「なんでそんなことで強く言ってしまったんだろう」って思う時がよくあります。自分は一人でもできるって思っていることも、親の支えがあったからこそ、今の私がいるのかなと思いました。心の中では感謝していても、なかなか面と向かって感謝するのは恥ずかしいし、勇気がいるけど、これをきっかけとして、「いつもありがとう」っていう気持ちを込めて感謝したいです。将来、大人になっても感謝の気持ちを忘れずにしていきたいです。(2年生)

今日の講演を聞いて、家族や友だちがいるからこそ、できることがたくさんあると思えました。自分は嫌なことや辛いことがあると、親や友だちに素直に言うことが苦手で、自分でため込んでしまうことがあるけど、そんな時、親や友だちは少しの変化に気付いてくれて、話をいろいろ聞いてくれます。その時、改めて周りに信頼できる人がたくさんいると感じました。それからは、嫌なことや辛いことがあると、すぐに親や友だちに言えるようになって、気持ちが楽になりました。これからは周りには信頼できる人がたくさんいることを忘れずに生活していきたいと思えました。(3年生)

今日の講演で、挙手をした友だちの話を聞いて、自分のことのように考えてしまって泣いてしまいました。心の中を言えるなんてすごいなと思えました。私は、自分に本当に自信がなく、本当のことを言えず、悪口を聞いたら思ってなくても「うん」「そうだね」と言ってしまうのも、今の私は「でも〇〇だよ」とか、自分の気持ちも言えるようになったので、そのままもっと成長していきたいと思えました。(3年生)



お読みになってどうでしたか？ 家族・親に対する「感謝」の気持ちが改めて強く自覚されています。生徒たちは、家でわがまを言っても、丸ごと受け止めてくれている親の存在に感謝しています。これからは温かく見守ってください。生徒は『温かい絆』に感謝し、確実に成長を遂げています。